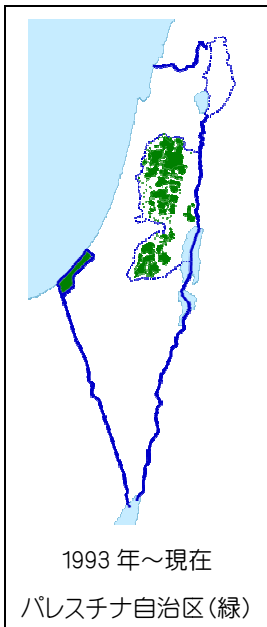




ベツレヘムとある印章

ダビデの町の遺跡から、2012年5月に、紀元前1006-586年の物と推定される粘土版の印章が発見されています。1.5cmの大きさで、3行に渡って古代ヘブライ文字がありますが、2行目にベツレヘムと記されています。聖書以外にベツレヘムと記録されているものが見つかったのは始めてということですが、聖書では、族長ヤコブの妻ラケルは死んで、エフラタ、すなわち今日のベツレヘムへ向かう道の傍らに葬られた。(創35:19)という箇所です。初めて出てきますが、最も有名な話は、ダビデはベツレヘム出身(サム上16)であるということでしょう。その伝統を汲んでイエス様は、救世主、ダビデの子として、ベツレヘムで誕生したのです。

私たち一行はエルサレムから10キロほど南のベツレヘムに向かいました。ベツレヘムは標高726mの小高い丘の上にある町ですが、パレスチナの自治区内にあります。パレスチナはガザ地区と西岸地区に分断されていますが、ここでは更にイスラエルを守るために作られた分離壁、有刺電流線で分断されていて、心痛む風景となっています。パレスチナへ行くためには検問をうけ分離壁の向こうに行くことになります。日本はパレスチナを国家として承認していません。統計によれば、イスラエルの人口約800万のうち、ユダヤ人77%、アラブ人18.5%、その他4.3%で、ユダヤ系のうち68%がイスラエル生まれとのことです。その他のユダヤ系はヨーロッパ、アメリカからの移民が22%、アジア、アフリカからの移民10%となっています。イスラエルは宗教の自由を認めています。ユダヤ教徒が76.2%、イスラムが16.1%、キリスト教徒が2.1%、ドゥルーズ派が1.6%、その他3.9%です。



1993年～現在
パレスチナ自治区(緑)

一方パレスチナの人口は約450万ですが、混在して居住しているため、計数が微妙とのことです。宗教はスンニ派が主流ですがイスラム教徒が80-85%、ユダヤ教徒12-14%、キリスト教徒1-2.5%とのことです。また、パレスチナ難民と言われる人々も400万と言われています。一人あたりのGDPはイスラエルの10分の1以下です。このように、人種、宗教、経済の多様性、あるいは格差の中で一緒に暮らしているのですが、パレスチナ人は左図のように限定的な自治区に住むように分離壁で封じ込まれています。さらにエルサレムでも、北ガリラヤ地方でも、イスラエルの占領が恒久化しているのです。

ベツレヘム地区は、キリスト教徒人口が多いと言われています。横浜港南台教会のツアーではパレスチナ人クリスチャンの教会、ルーテル派のクリスマス教会を訪問しました。そのミトリ・ラヘブ牧師が訪日された時、東京でお会いしました。彼は、「私たちは2000年前からクリスチャンです」と言っておられました。けれどもイスラエルとの対立に苦しむパレスチナについても話されました。彼の教会は、「和解」の構築のために様々な活動をしておられます。

私たちの旅はクリスマス・ストーリーを辿り、誕生の場所、羊飼いの野を見学しても、パレスチナを見ない旅だったと思います。聖誕教会の小さな入口に入ったとたん、カメラの電池が切れ、写真はなし。ベツレヘムの星も、洞窟もイエス様が「写真に収めなくてもいいよ」と言われたのでしょうか。ただコンクリート製の6m位の高い分離壁の様子が心に重く残ったベツレヘムでした。



ベツレヘム遠望



分離有刺電流線